



Japan
Heart

2018 Annual Report

年次報告書

2018.4.1～2019.3.31

2018年度 受賞

第22回

地球倫理推進賞 国際活動部門

文部科学大臣賞

私以外にあと一人、本気でそれを心から信じる事ができ、行動する者が現れば、それは現実となる可能性が生まれてくる。その一人ひとりとその夢のカタチを想像し、ときめくものを感じることがあれば、その夢は強化されていく。

願いも思考も祈りもエネルギーだから、集めればどんどん大きくなり、やがてそれは現実に姿を現すだろう。

子どもの頃のみすばらしく痩せこけた姿を見て、やがてその子どもがその国の未来を変えるのだと理解できる人がいないように、私たちジャパンハートは今、そんな痩せこけた子どもなのかもしれない。しかし、それでも私は信じている。きっとそう遠くない未来にきっと大きな変革をこの世界に興していくのだろうと。

カンボジアに創ったこども医療センターは、やがてアジア中の貧しい子どもやその家族が無料で医療を受けれる病院になっている。そこはアジアの子ども達が最後に頼る病院でありたい。

日本のがんの子どもやその家族が、決して孤立したり社会から遠く離れた存在ではなく、いつも誰かに見守られ、必要なサポートを適切なタイミングで受けることのできる、そんな世の中にしたい。

まだまだ先は長い気がするけれど、人の寿命はそれ程には長くなく、それに関わる者が、それぞれのかけがえのない大切な時間を投資するに値する、価値ある夢でなければならない。

先を急ごう。

先を急がなければ、せっかく生まれてきたのにこの素晴らしい世界からわずか数日、数カ月、数年で消えていかねばならない命が数え切れないほどに増えていく。

もしもあなたがそんな現実を受け入れることが嫌ならば、私の夢に加担してくれないだろうか？

私以外にもう一人、心の底から本気でその夢を信じてくれる人が現れたなら、その夢は現実となるかもしれない。

そしてもう一人、さらにもう一人と、その夢を信じてくれたならば、それはその姿を実際に目の前に現してくれるだろう。

さあ、急ごう。

私はお先に今からたった一人で、切り込んでいきます。

特定非営利活動法人ジャパンハート 最高顧問 / ファウンダー

吉岡秀人



ジャパンハートのあゆみ

1995

吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始

2004

国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立
《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始
国際長期研修開始（現・国際看護師研修）

2008

《日本》東京事務局開設
《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始
《日本》僻地・離島支援開始
《日本》心の医療事業開始
（現・SmileSmilePROJECT）
自由都市・堺 平和貢献賞 奨励賞受賞
NPO 法人格取得

2009

《カンボジア》医療支援活動を開始

2010

《ミャンマー》養育施設 DreamTrain 開設
《ミャンマー》視覚障がい者医療マッサージ訓練センター開設
大山健康財団賞受賞（吉岡秀人）

2011

《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始
《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始
「認定 NPO 法人」として認定を受ける
《日本》宮城県石巻
「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設

2012

大山健康財団賞受賞

2013

《ラオス》医療支援活動を開始
《タイ》バンコクオフィス開設
《フィリピン》台風30号緊急医療支援

2014

《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始
外務大臣表彰
沖繩平和賞受賞
「明日の象徴」受賞（長谷川彩未）

2015

《ミャンマー》大洪水 緊急支援
《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始
大山健康財団 激励賞受賞（河野朋子）

2016

《日本》熊本地震 緊急支援
《カンボジア》AAMC（現・ジャパンハートこども医療センター）開設
《ミャンマー》小児心臓病サポート開始

2017

社会貢献者表彰受賞
保健文化賞受賞（厚生労働大臣賞／第一生命賞／NHK 厚生文化事業団賞／朝日新聞厚生文化事業団賞）
《ミャンマー》小児生体肝移植プロジェクト開始

2018

《ミャンマー》ミャンマー国内初の小児生体肝移植成功
第6回エクセレントNPO大賞「市民賞」ノミネート
第22回地球倫理推進賞（国際活動部門）、文部科学大臣賞 受賞

私たちの次なる挑戦 「全ての人に高度な医療を届ける」

【小児がん治療のスタート／カンボジア】

ジャパンハートが2016年に開院した病院は、2018年6月、小児病棟を拡張し「ジャパンハートこども医療センター」と名称も新たに小児診療部門



を強化しました。2018年8月からは、小児固形悪性腫瘍（小児がん）を患った子どもたちの治療を開始。同年12月からは、日本の5連携小児外科チーム※による小児がん（腎芽腫、肝芽腫、神経芽腫等）の手術を行っています。

日本では80%が完治するといわれる小児がんですが、開発途上国では20%未満しか助からないという現実があります。カンボジアでは年間600人ほどの小児がん患者がいると推測されますが、治療可能な施設に受診するのはそのうち200人程度。小児がんに関する知識がなく受診が遅れる、受診できても正確な診断がされない、小児がんの種類によっては治療ができない、高額な治療費により治療を断念せざるを得ない……。

ジャパンハートはそんなサバイバルギャップを埋めるため、カンボジア国内の連携病院から患者の紹介を受け小児がん患者の治療を進めています。小児がんの患者数は、2019年3月時点



で累計23名に達しました。

今後、カンボジア国内に限らず近隣国からの患者受け入れも視野に入れ、病床の増設やハイケア病床の設置等、施設の整備、現地医師への技術移転も引き続き行っていく予定です。また、本年6月末に竣工する給食センターを稼働させ、小児がん患者に安全で栄養バランスの取れた食事を提供するなど、総合的なケアを目指します。

※大阪大学、岡山医療センター、九州大学、慶応大学、中国四国小児外科医療支援機構

ジャパンハートは、貧困や医師不足により医療にアクセスできない人々を対象に「医療を手の届くものにする」ということを活動の始まりとしており、現在もそれが活動の土台となっています。そして、次に踏み出したのが高度医療の提供。こぼれ落ちていく命をなくすために、私たちは、日本の大学専門チームや専門病院合同チームによる協力を得ながら、新たな挑戦を始めています。

【ミャンマー国内初の小児生体肝移植／ミャンマー】

2019年3月、ミャンマー国内初の小児生体肝移植手術が行われ成功を収めました。この手術は、ミャンマー政府が国家プロジェクトとしている小児生体肝移植の技術移転への協力依頼をジャパンハートが受けたことからスタートしました。

2016年のミャンマー国内での小児肝臓・胆道系治療から始まり、これまで、現地医師に対し合計5回にわたる小児の肝臓・胆道系疾患の手術指導を行うと共に、ミャンマー人医師を九州

大学病院に招へいしての小児肝臓移植の見学・指導を2回実施。2018年3月には、肝臓移植でしか助かる見込みのないミャンマー人男児を日本に招き、九州大学病院にて父親からの生体肝移植を実施しました。

そして今回、ミャンマー国内での設備面および人材面の体制、九州大学病院チームの指導下による小児生体肝移植実施の体制が整ったと判断し、本年3月17日、ヤンゴン子ども病院にて、胆道閉鎖症術後・食道静脈瘤合併の5

歳・男児に対し父親からの生体肝移植手術を実施し成功を収めました。

弊団体は、日本の専門家チームの招へいや現地病院の受け入れ体制の整備などをコーディ



保健スポーツ省大臣とヤンゴン子ども病院、ほか現地医療者との集合写真

ネートをしており、本プロジェクトは、ミャンマーの保健スポーツ省とMOU (Memorandum of Understanding) と呼ばれる覚書を結ぶことで実現しています。

今後も引き続き、ミャンマー国内での小児生体肝移植手術を実施するとともに、実施病院を増やしより多くの患者の治療を目指します。



九州大学によるミャンマー国内初の小児生体肝移植手術



患者は手術後、順調に回復し退院

Message

活動担当からのメッセージ



カンボジア病院事業責任者
神白 麻衣子

ジャパンハートこども医療センター（小児病棟）が開院して1年が経とうとしています。ここでは小児血液腫瘍専門医である嘉数真理子医師と、日本国内の各大学小児外科チームの協力により、子どもの腹部にできるがん（肝芽腫、腎芽腫、神経芽腫）の治療を始めました。

初年度は5～10名の小児がん患者を受け入れながら、若手ばかりの現地スタッフのトレーニングを行う予定でしたが、いざ開院してみると、予想以上に患者が集まり、15床ある小児がん病棟は2、3カ月

で満床になってしまいました。現場はーからシステム作りをしながら、スタッフ教育を行いながら、設備を整えながら患者を治療するといった状態で、様々な混乱がありました。しかし、これまでに予定の2倍を超える23名の治療を開始することができ、厳しい化学療法や手術を乗り越えて、愛らしい笑顔を見せる子ども達と、日に日に成長する現地スタッフの姿に元気づけられています。

皆様のご支援は確実に現場に届いています。心より感謝を申し上げます。

Message

活動担当からのメッセージ



ミャンマー専門医療プロジェクト
Project Director 河野 朋子

「日本の先進医療でミャンマーの子どもたちを救う」を目標に、日本からの各分野の専門家を招いてのミャンマー専門医療プロジェクトが本格始動してから約2年。2018年度には、ミャンマー国内初となる小児生体肝移植を成功させると共に、年間200名以上の小児心疾患や口唇・口蓋裂などミャンマー国内では難しいとされている子どもたちの治療にあたることができました。

このプロジェクトは、現地医師たちの熱意やニーズに日本の専門家が応える形

で、日本とミャンマーの合同チームによって行われています。そして、2年間にわたる地道な取り組みによって、「ぜひ日本チームと一緒にやりたい」との声も多く聞かれるようになり、現地からの大きな信頼を得つつあるのを実感しています。

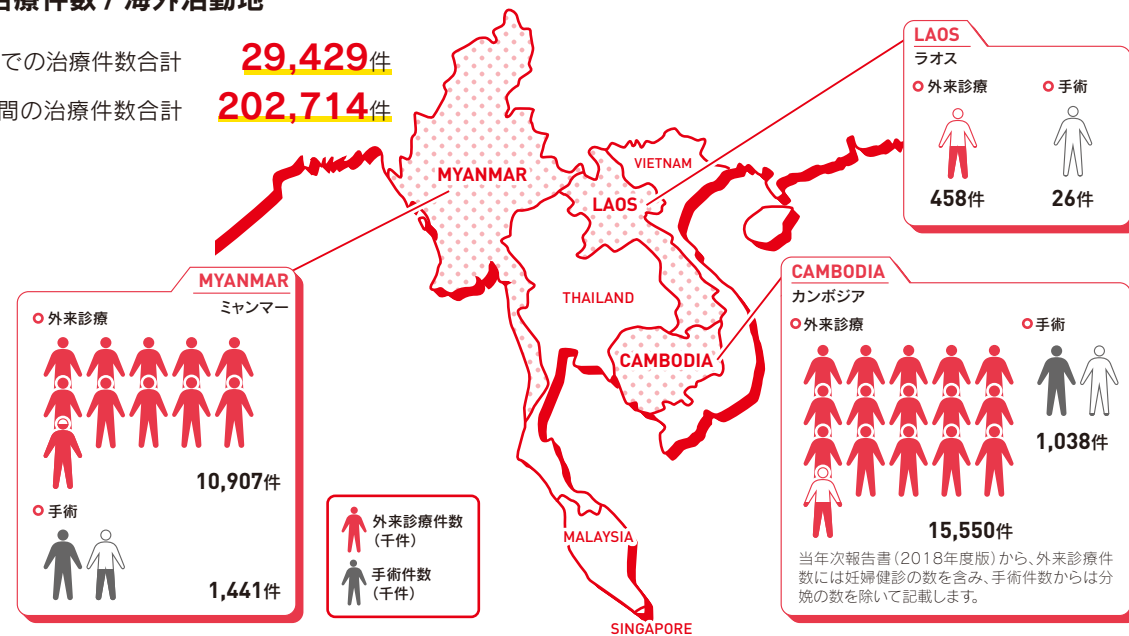
病気の子どもたちを取り巻く環境はまだまだ厳しいミャンマー。解決するべき課題はたくさんありますが、これからも日本&ミャンマーの合同チームで果敢に立ち向かって行きます。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2018年度ジャパンハート活動ハイライト

2018年度、ジャパンハートはこれまで以上の協力者を得ることで活動の幅を広げ、より多くの患者に医療を届けることができました。

▶2018年度治療件数 / 海外活動地

- 2018年度海外での治療件数合計 **29,429件**
- 設立から15年間の治療件数合計 **202,714件**



ジャパンハートこども医療センター(カンボジア) 専用寄付サイト「あすへのあしあと」オープン



ジャパンハート団体ホームページリニューアルオープン



第22回地球倫理推進賞 (国際活動部門) および文部科学大臣賞 受賞



カンボジア奨学制度「夢の架け橋プロジェクト」から医師第一号(ネアー)が誕生。ジャパンハートこども医療センターに就職

第6回エクセレントNPO大賞「市民賞」ノミネート

大阪市立大学との医師派遣連携制度を締結

2018

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2019 1月 2月 3月 4月



地域医療事業紹介ウェブサイト「RIKA job」オープン

西日本豪雨被災地である愛媛県に、看護師・救急救命士らによるiER初動チームを派遣

ミャンマー社会福祉省大臣を日本に招へい



海外ボランティア参加者向けのウェブサイトオープン



インドネシア・スラウェシ島地震を受け国際緊急救援(iER)が現地に活動



九州大学病院で生体肝移植手術を受けたオッカー・チョー君が退院



ジャパンハートこども医療センター(カンボジア)で日本の小児外科チームによる小児がん手術を開始



SmileSmilePROJECTで初の単独報告会開催(KANDAI Me RISE-関西大学 梅田キャンパスにて)



ミャンマー国内初の小児生体肝移植実施・成功

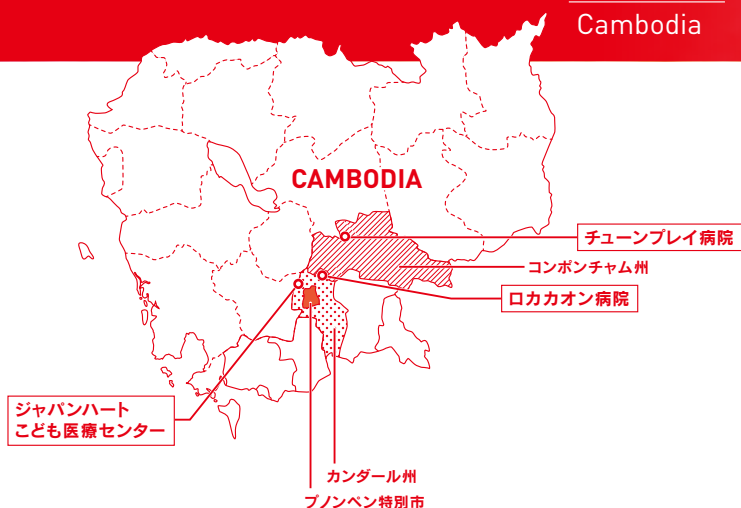


大和ネクスト銀行えらべる預金連携開始



カンボジア

Cambodia



20年に及んだ内戦の爪痕が
今もなお深く残るカンボジア。
知識人の大量虐殺により、
当時残った医者は
40名程度だと言われている。
貧しい人々に医療の届かないこの国では、
1歳に満たない子どもが
年間約1万人も亡くなっている。

医療人材の育成から医療の充実まで 患者の総合的なケアを目指す

▶医療活動

「ジャパンハートこども医療センター」は開院から3年が経ちました。

2018年度は、小児診療部門を強化し、カンボジアでは完治することの難しかった小児がんの治療を開始。2018年12月からは、日本の小児外科チームが1～2カ月に1度来院し小児がん手術を安定的に実施しています。入院した小児がん患者は累計23名にのぼりました。長期間の入院になる小児がん患者を対象に、医療者が付き添い近くの観光地への外出をサポートするなど心のケアにも取り組みました。

周産期活動では外部のヘルスセンターで「モバイル母親学級」を開始しました。

2018年5月より連携病院（チューンプレイ病院、ロカカオン病院、プレイチャー病院、パティエ病院）で計6回以上の外来診療や手術活動を実施。また、近隣小学校を中心とした2回の健康診断活動、そして訪問看護活動も行いました。

実績 診療：成人15,550件、小児1,652件
手術：1,038件（うち小児195件） 分娩：9件
活動地 ジャパンハートこども医療センター・ボンネル病院・ロカカオン病院・パティエ病院／カンダール州、チューンプレイ病院・プレイチャー病院／コンボンチャム州

▶給食調理施設「長沼給食センター」建設

2018年12月、ジャパンハートこども医療センターに隣接させるかたちで給食調理施設の建設工事を開始しました。小児がん治療により免疫が下がった子どもたちへ、衛生的で栄養のある食事を届けるために、給食調理施設の稼働に向けた準備を進めています。給食センターは2019年6月に竣工予定です。



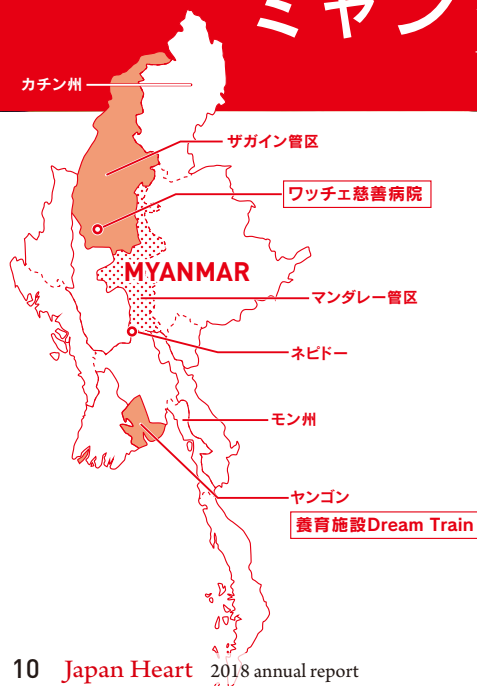
▶医療学生育成活動「夢の架け橋プロジェクト」

カンボジア日本友好学園に加え、プロモプロム高校、メサン高校、フンセン高校、プラティエット高校の5校で奨学生を募集し、5名（医学部学生1名、看護学部学生4名）を採用しました。また、医学部学生1名と看護学部学生2名が大学を卒業し、それぞれが医師と看護師としてジャパンハートこども医療センターにて2年間の卒後研修を開始（医師誕生は初）。2年間の卒業研修をしている3名のうち1名が任期を終えたのち、正規スタッフとして採用されました。



ミャンマー

Myanmar



都市部の発展が進む、ミャンマー。
しかし、国土のほとんどを占める農村部には
貧しい村々が広がる。
保険制度も整っておらず、貧しい人々は
病院へ行くことを諦めてしまう。
そして国境地域では、貧しさ故に、
子どもたちがたった数万円ほどで人身売買されている。

医療と福祉の両輪で ミャンマーの子どもたちの未来を作る

▶医療活動

2004年の団体設立当時から医療活動を行っているワツチェ慈善病院では、2018年度も引き続き月1～2回の手術活動に加え、小児外科手術活動を年2回実施しました。

ワツチェ慈善病院の活動は場所を病院にとどめず、3回のモバイルクリニック（移動診療）を行い、600件以上の患者の診療を行いました。また、2018年10月からは、月に1回のペースでヤンゴンの孤児院にて往診を行い、200件の子どもの診療を始めました。

高度な医療技術が必要とする小児患者の治療は、毎回日本の専門科チームを招へいして実施しています。2016年度に始まった小児生体肝移植プロジェクトは、段階的な技術移転を経て、2019年3月、ミャンマー国内で初となる小児生体肝移植手術を実施し成功しました（詳細は本誌5ページ）。そのほか、小児泌尿器疾患、口唇・口蓋裂、熱傷瘢痕、耳鼻科疾患などを対象に手術を実施しました。

実績 ワツチェ慈善病院 ▶ 診療10,107件 手術1,211件
専門医療活動 ▶ 診療800件 手術230件

活動地 ワツチェ慈善病院、ヤンゴン子ども病院、マンダレー子ども病院、マグエ病院、サガイン病院、ヤンゴン耳鼻科専門病院、Retired Service Personnel's Hospital

▶小児心臓病サポート

産経新聞の「明美ちゃん基金」協力のもと、5年計画の4年目事業として、小児循環器・心臓血管外科・麻酔科の専門医（合計29名の専門家）を日本からヤンキン子ども病院に2回派遣し、79名の心臓病疾患児の治療および診断を実施しました。また、今後予定している、マンダレーでの活動展開に向け、マンダレー総合病院および子ども病院との交渉を行いました。

▶視覚障がい者自立支援

ヤンゴンのトレーニングセンターにて医療マッサージ職業訓練1年コースを開講しました。また、マッサージ技術およびマッサージ店でのサービスの向上を目指し、日本人の医療マッサージ専門家を招へいしての全国セミナーを2回開催しました。

ミャンマー国内の医療マッサージ資格化に向け、ジャパン

ハートはミャンマー社会福祉省からの依頼により「資格化推進委員会」の委員会運営を担っています。2018年度は、社会福祉省と協働で統一カリキュラムの作成、免許制度の整備、委員会形成を行いました。また、合計8回の会議を行い、免許制度の根幹となる法律のドラフトおよび統一カリキュラムのドラフトを作成。社会福祉・救済復興大臣との密な連携を図っています。



▶養育施設 Dream Train（ドリームトレイン）

Dream Train の在籍者は2019年3月1日現在で合計140名です。2018年度施設卒業者のうち、76%が職業訓練を経て自立しました。在席している子どもたちには、外部指導者によるパソコン教室、在ヤンゴン日本企業の見学・訪問、語学、サッカー、野球、ダンス、料理教室、縫製教室等、様々な学習機会を提供。2018年度は、施設初の日本語検定2級合格者が出ました。小・中学生の進学進級試験合格率は100%です。高校卒業試験受験者に対しては、塾・家庭教師と連携し、模擬試験実施回数を増やしたり、習熟度別の学習指導を行ったりしました。

施設は、停電時もある安定して電力を得るための太陽光パネルの設置、運動場の防球ネット設置、雨どいの交換など、住環境の向上にも努めました。



▶サイクロン孤児支援

2008年にミャンマー南西部を襲ったサイクロン「ナルギス」により被災し孤児となった子どもを対象に、2018年度は30名の子どもの生活・教育・医療面でのサポートをしました。大学生5名は卒業し、就職しました。

▶医療学生育成活動

奨学生10名（医学部3年生5名・看護学部4年生5名）の支援を行いました。

※本奨学金支援は一般財団法人新倉会の支援で実施しています。



ラオス Laos

ラオスは多くの NGO や国家機関が
支援を行っているにも関わらず、
開発途上国から脱却できずにいる。
いまだ道路などのインフラも整っておらず、
地方の貧しい人々は
医療にアクセスすることさえ困難な状況が続く。

移動診療と現地医療者育成による自立支援で より多くの患者に医療を届ける

▶医療活動

ラオスの北部地域のボンスリー県は山岳地帯で、現地で生活する人は海藻などに含まれるヨウ素不足に起因した甲状腺疾患が多く、医療ニーズの高い地域です。しかし、現地の医療者不足と医療技術の問題により、適切な治療がされず患者が症状を放置している現状がありました。

ボンスリー県へ医療支援に入る場合、悪路を進むため移動は天候に大きく左右され、場合によっては大変な時間を要するため現地での活動が予定通りに進まないなどの弊害があります。そこで我々は、ボンスリー県から南に位置するウドムサイ県での活動を始めました。ウドムサイ県は、ボンスリー県ほか周辺地域からもアクセスが良かったため患者を誘導して医療を届けることを可能にしました。

同時に、ウドムサイ県病院で甲状腺外科技術・内科診療技術・術後看護技術に対する技術移転を行っており、数年後には現地活動病院の自立した甲状腺治療を目標にプロジェクトをスタートしています。

パークグム郡病院での活動は、術後管理の必要な患者のケアを継続しています。

2017年度は Mou (Memorandum of Understanding) 申請期間となりましたが、2018年度より医療活動を再開することができました。

また、顔面に先天奇形のある子どもの医療支援を行っており、2015年に来日手術をした後もケアを続け、2019年度はカンボジアのジャパンハートこども医療センターで2回目の手術を計画しています。国を越えて、必要とされる医療が届けられるよう挑戦を続けてまいります。

ほか、個人診療では、2018年6月時点で計14件の診療を行っていましたが、可能な限りのサポートを終了したため、現在診療している患者数は7名となりました。



ウドムサイ県病院での甲状腺疾患治療の様子。治療には日本からのボランティア医師・看護師のほか、ミャンマーのワッチエ慈善病院の常駐医師などが応援に入る

ラオスでは貧困や医師不足により、子どもたちの100人に7人が5歳を迎えずに亡くなっている現状がいまだにあります。ラオス政府が、小児死亡率を低下させるため様々な取り組みを実施していますが、ジャパンハートとしても小児医療に特化した新たな活動を目指してまいります。

実績 診療458件 手術26件

活動地 ヱエンチャン特別市、パークグム郡病院、ウドムサイ県病院、ボンスリー県ニャットウー病院、ボンスリー県病院



過去、治療で携わった患者は定期的に医療者が出向いての個人診療を継続する



国際緊急救援 (iER : International Emergency Relief)

昨年度は、支援対象国へ垂急性期での国際基準を満たした医療支援活動を実施することを目標に、以下の活動を行いました。

▶組織内部強化

活動マニュアル、団体内規：スタンダード・オペレーション・プロセデュア (SOP) 作成および、タスクフォースチームの構築を行いました。学術的立場、実戦的立場から、ジャパンハートとしての国際緊急救援ノウハウの形成をすべく、中田敬司氏 (神戸学院大学教授) とサニー・カミヤ氏 (日本防災教育訓練センター代表理事) を顧問として招へいし、タスクフォースチームを構成。両顧問は国際緊急救援ボランティア研修プログラム作成に助言すると共に、継続研修の講師も担当しました。

国際緊急救援のノウハウ蓄積を目標に、研修、訓練、出動を通して iER ボランティアの育成と制度構築を行い今後プロジェクトの中心となるチームの強化を行いました。

▶実派遣活動

2018年7月西日本豪雨 ▶ 7月10日～13日、7月19日～21日にかけて愛媛県宇和島市、西予市を中心に調査隊の派遣を行いました。

2018年9月北海道胆振東部地震 ▶ 9月14日～15日にかけて北海道厚真町、むかわ町などを中心に調査隊の派遣を行い

ました。

2018年9月インドネシア・スラウェシ島地震 ▶ 2018年9月28日に発生したインドネシア・スラウェシ島における地震および津波災害に対し、10月11日～13日までパル市、シギ地区、ドンガラ地区を中心とした地域にて、現地カウンターパートである PKPU と初動調査を行い、医療、食料および Non-Food Items (NFI) の分野において高いニーズが確認されました。そこで、10月31日～11月16日にかけて iER ボランティア (現地事業統括1名、医師4名、看護師7名、業務調整員3名) を現地に派遣し、現地医療者のサポートや医療消耗品の支給、食料および NFI 配布を実施。2019年2月1日からは、ナモ村サバ地区の仮設家屋18世帯に対する建設資材配布支援も実施しました。本活動はジャバンプラットフォーム (JPF) の助成金を利用したものであり、2019年3月31日をもって、すべての支援を終了しています。

人材育成 ▶ 外部ボランティア登録制度の確立と運営研修制度の確立・運営、登録制度参加者数の保持に努めました。2017年6月から開始した災害ボランティア研修制度は2年目となり、これまでに約90名の方がジャパンハート災害ボランティアとして登録しています。

国内外ネットワーク作り・強化 ▶ JPF を含む外部関係機関および、災害ボランティア登録者との連携、関係構築を行いました。

グローバル人材育成

▶看護観を見直す研修をより充実するものに

国内僻地・離島、海外における多様な医療現場での臨床経験を通して総合的な看護能力を磨く「国際看護師研修」(1年間)、および研修修了生の次のステージである「国際医療支援チーム (アドバンスドナース)」の活動 (6カ月～1年) をグローバル人材育成事業の柱として推進するとともに、研修内容の充実を図りました。

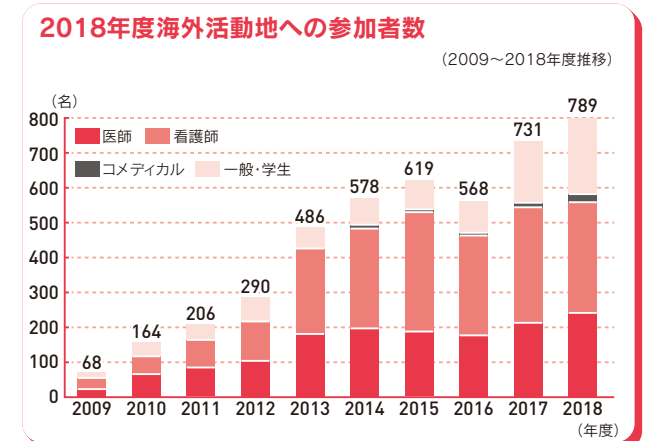
2018年10月からは、海外活動地での育成指導を積極的かつ自由に取り組めるよう、東京事務局の人材育成担当が主体で取り組んできた研修生の育成指導を、海外活動地へ移管しました。また、2018年8月 (51期) から国内僻地・離島での活動を看護師支援サイト RIKAJOB を通じた「社会貢献」という位置づけに変更することにより、自立した看護師として活動を実施しやすい環境を整えました。

▶助産師海外研修開始

カンボジアのジャパンハートこども医療センターでは、2016年にジャパンハート初となる周産期事業が誕生し、2017年には4Dエコーを用いた妊婦健診室を設立。現場の環境が整ってきたため日本人の助産師研修をスタートしました。現在、現地の病院と連携を図りながら、産じょうく新生児管理・妊婦健診・母親学級の開催・分娩管理を行っています。

▶より参加しやすい国際協力のカタチを

「国際医療短期ボランティア」は、ウェブサイトを利用した情報拡散、広報活動等を積極的に行い、医療者・学生ともに参加者数が増加しました。また、高校生・大学生・看護学生・看護師・支援者など、様々な層を対象にしたス「海外ボランティアツアー」を開催したところ、参加後のアンケートから多くの参加者が満足度の高さを示し、その後のアクションにもつながったため、今後も引き続きツアーの開催を企画していきます。





SmileSmilePROJECT



2018年度、SmileSmilePROJECT（旧プロジェクト名称：すまいるスマイルプロジェクト）はロゴデザインを一新し、多くの活動を行いました。

ご招待企画（東京ディズニーランド、キッザニア甲子園2回、キッザニア東京、大自然阿蘇健康の森、TSURUMI こどもホスピスにて親子で楽しむコーヒーセミナー3回、熊本赤十字病院にてプラネタリウム、キッズセミナー）は61組の小児がんのお子さまとご家族さま合計203名をお招きして開催しました。

個別企画では11件のご依頼をいただき、東京ディズニーランド、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、箱根温泉、富

士サファリパーク、コンサート鑑賞、立川花火大会に行き素敵な思い出作りのお手伝いをしました。

ご協力いただいたボランティア（医療者・医療系企業の社員・一般・学生）は194名と過去最多になりました。

広報活動は、映像制作、活動報告会実施のほか、「第16回小児がん看護学会」での症例発表、ボランティア説明会を開催しました。

今後とも、がんと闘う子どもたちの応援団として、「自分は大事にされている」と思えるような関わりを目指し活動を続けていきたいと思ひます。

皆さんからのお便り

「キリンに会いたい！」ご依頼でご家族とともに富士サファリパークへ

脳腫瘍と闘うSちゃん4歳のご家族より

外出当日、出先で体調が悪くなったのですが、体調チェックをしてもらって「大丈夫だと思います」って言ってもらえてとても心強く安心して旅行することができました。行く前は、お願いしなくてもいいかな?? って思ってたのですが、やっぱりお願いしてよかったです!! 安心して旅行を楽しむことができました。本人の笑顔をたくさん見ることができて嬉しかったです。本人も家族も大満足の旅行に行くことができました。

ボランティアさんからのお便り

カメラマンボランティアとして（キッザニア内を）回っていたのですが、どのお子さんもご家族もすごく良い顔をしていました。その中でもお医者さんになり手術が体験できるものがあり、それに並んでいた時に話をしてくれた子がいました。

「手術もした事があるし怖くない、ここにカテーテルもあった、次は自分も手術をする」って張り切っていました。手袋の付け方まで様になっていて、すべてがたくましかったです。このような職業体験が、またこのイベントが、この子ども達の未来にとってかけがいのないものになると良いなと思いました。

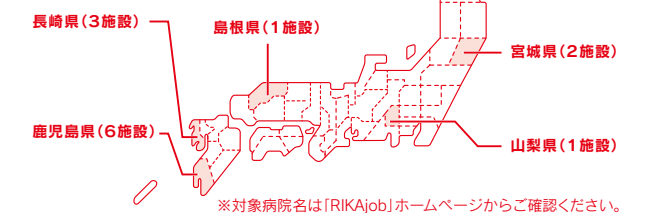
地域医療支援 / 日本

ジャパンハートの地域医療支援（僻地・離島医療支援）は、国内で看護師が不足している医療施設への人材支援と、ジャパンハートに所属する看護師の人材育成として2008年より看護師派遣を開始しました。

その後、ジャパンハートの「医療の届かないところに医療を届ける」という活動理念をより追求するため、2018年度より当プロジェクトを「医療者が国内でできる「社会貢献」」として再定義し、より多くの人が地域医療支援に携われる仕組みを作りました。

地域支援は3カ月から参加できる仕組みとし、専用サイトの「RIKAjob」を新たに立ち上げ参加しやすい環境を整備しました。参加の間口を広げたことによって、人材不足が課題

■ 支援対象病院



となっている僻地・離島の医療施設で活動できる人材の幅を拡大。また、参加する看護師にとっては、社会貢献をしながら、都会とは違う環境の中でより自身の看護観を見つめ直す機会としていただいています。

2018年度の看護師派遣実績は、38名、のべ286名でした。

支援対象施設は、東日本大震災被災地である宮城県を含め、全国13カ所。島根県隠岐島・長崎県上五島・長崎県対馬・山梨県牧丘町・宮城県女川町・気仙沼本吉町に加え、昨年度は鹿児島県奄美群島（奄美群島活動地：奄美大島、喜界島、沖永良部島、徳之島）への派遣を開始しました。さらに、長崎県五島中央病院を活動拠点に追加しました。

また、「RIKAjob」ホームページの立ち上げに加え、Instagram のアカウントを開設し支援対象病院周辺の地域情報の配信を開始しました。



私たちの活動に参加しませんか？

▶海外ボランティアツアー

年15回程、一般・看護師・学生を対象とした海外活動地でのボランティアツアーを実施しています。観光をしながら活動国の文化に触れ、活動地ではボランティア体験と共に現地の人々の生活を学びます。スタッフが同行するので、1人の参加や海外渡航が不安な方にも大変おすすめです。



▶海外・国内学生インターンシップ

インターンシップとは、半年から一年程度、海外・国内の活動地で活動運営に無給で従事しながら、NPOの仕事学ぶ活動形態です。カンボジアのみで受け入れを行っている短期インターン制度は2週間から2カ月間程度、ジャパンハートこども医療センターで現地スタッフと一緒に活動を行います。これらの貴重な経験を糧として就職活動に活かす、国際協力の世界に入るなど、皆多くの実りを得て、社会で活躍しています。



▶国内イベント・セミナー

年間を通して様々なイベントを全国で実施しています。活動の説明や報告を通じて国際協力への理解を深め、同じ興味を持つ方々との交流の場としています。また、ボランティア参加説明会や講演では、途上国医療の現状、現地の生活、実際に医療活動を行った医療者たちの話を聞くこともできます。



▶国際医療ボランティア（短期・長期）

ジャパンハートの活動のメインとなる海外での医療活動。日本とは異なる環境は、様々な学びと発見の連続です。そのほか養育施設 Dream Train で子どもたちのサポートをするボランティアも。医療者、一般、学生、親子もご参加いただけます（非医療者には病院運営のサポートなどをお願いしています）。数日から参加可能な「短期ボランティア」に加え、現地に腰を据えて活動に専念する「長期ボランティア」も募集中です。

※海外での活動参加には会員登録が必要です。



カンボジアのジャパンハートこども医療センターで長期ボランティア医師として活動している小児科医の嘉数真理子（かかずまりこ）です。こども医療センターの立ち上げのためカンボジアに来て2年近くになります。

カンボジアは経済成長率7%台の順調な発展を続け、首都プノンペンには高層ビルも建ち始め、農村部でもスマートフォンが普及し人々の暮らしは変化しています。疾病構造も変化し、感染症による死亡は減少傾向にあり、心血管障害、悪性新生物が死因の上位を占めるようになりました。富裕層は海外や、都市部の設備の整ったプライベートの病

院で医療を受けられるものの、医療保険制度はまだ整っておらず、貧困層が受診してもきちんと診てくれる病院が少ないのが現状です。

そんなカンボジアに私が来た理由。それは「病気で困っている子どもとその家族を助けたい」という医者になった頃に抱いていた目標があるからです。カンボジアでは15歳以下の子どもが人口の3分の1を占め、ここ最近では予防接種の普及やインフラ整備などにより感染症での死亡は減少しています。しかし、医療の遅れや経済的な事情から乳幼児死亡率は日本の10倍以上と報告されています。私の専門とする小児がんは日本をはじめとする先

進国では治療の進歩により80%が治るようになりました。しかし、開発途上国では20%未満しか助からないという事実を知り、強い衝撃を受け、居ても経ってもいられなくなり活動に参加しました。

カンボジアに来た当初は成人を中心に診療していましたが、昨年6月にジャパンハートこども医療センターがオープンし、今は小児の外來・入院診療を中心に専念しています。腫瘍、肺炎、喘息、デング熱といったカンボジアでよく見る小児疾患だけでなく、これまで国内でほとんど治療されていなかった小児悪性固形腫瘍の診療も開始しました。初年度は年間5〜10名程度の小児がん患者を受け入れる予定でしたが、想像以上に患者さんが集まり、1年間で26名もの小児がん患者を受け入れています。幸い小児がんの治療に必要な薬剤はほとんど手に入るため、私が抗がん剤治療を行い、1〜2カ月に1回、日本から小児外科チームに来て頂き手術を行っています。吉岡秀人先生の呼びかけで、大阪大学、岡山医療センター、九州大学、慶応大学、中国四国小児外科医療支援機構の小児外科チームが定期的にきて、小児がんなど小児外科の手術を行う流れを作ることができました。

約半年間にも及ぶ長い治療を終え、元気に退院していく子どもたちを見ると本当に嬉しく、手応えを感じます。もちろん助かる子ばかりではありません。受診したときにはすでに全身にがんが広がっている子もいます。しかし、命を救うことができなくても、痛みや

辛い症状を和らげて、家族と一緒の時間を過ごすてもらい、「最後までケアしてもらった」と感じてもらうような心がけています。

将来的には他のアジアの国からも患者さんを集め、東南アジアの小児医療拠点になることを目指しています。そのため、現地の医療スタッフを育て、彼らがこの病院とカンボジアの医療を担うようにしていきたいと考えています。現在、6名のカンボジア人医師が当院で研修を行っています。彼らと共に学び、教える日本人医師が必要です。

給料は無く完全ボランティア、年中暑く、宿舎はあるものの日本のように快適な場所ではありません。限られた設備で十分な検査・治療ができないこともあります。スタッフは英語が通じるものの、ほとんどの患者さんはクメール語しか話せません。医療不信が強く、どんなに説明しても治療を拒否され、帰ってしまう患者さんもいます。決して楽な環境ではありませんが、その中でも患者さんにとってベストなケアを考え、必要な医療を届けることは可能だと感じています。限られた医療資源の中、国内外のスタッフと協力して自分のスキルを活かし患者さんを治療していくのは得がたい機会であり、確実に自分の学びと成長につながると思います。

当院では短期・長期ボランティア医師を募集しています。一緒に理想の医療を実現してみませんか？あなたのご参加をお待ちしています！



活動への支援

様々な形でご支援いただけます

ジャパンハートの活動は、皆様の支援により支えられています。

いただいた寄付金・募金は活動地での医薬品・医療器具等の購入及び活動費として大切にに使わせていただきます。

継続的・今回のみの寄付

・継続的な寄付

1日約30円からできる、継続的な活動サポートです。毎月決まった金額を寄付することができます。

▶ オンライン決済 / クレジットカード

団体ホームページ「寄付をする」ページへ。
「継続的な寄付」を選び決済をお願いします。

▶ 口座からの自動引き落とし

電話、電子メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて
口座振替用紙をご請求ください。

・今回のみの寄付

▶ オンライン決済 / クレジットカード

団体ホームページ「寄付する」ページへ。「今回のみの寄付」を選び決済をお願いします。

▶ 口座への振込み

団体ホームページ
「寄付する」ページは
こちらから



お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀 行 名 ゆうちょ銀行
口 座 名 義 特定非営利活動法人 ジャパンハート
記 号 番 号 00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀 行 名 ゆうちょ銀行
口 座 名 義 トクヒ) ジャパンハート
預 金 種 目 当座
店 名 ○九九店 (ゼロキュウキュウ店)
口 座 番 号 0166806

当団体は認定 NPO 法人に認定されているため、ご寄付をいただくと税制上の優遇が受けられます。

《控除の対象とならないもの》 ●会費（正会員・賛助会員） ●長期研修参加費 ●短期ボランティア現地医療活動費
●イベント参加費 ●募金箱への募金・匿名寄付

詳しくは最寄りの税務署へお尋ね下さい。

会員になる

ジャパンハートの活動理念にご賛同いただき、一歩踏み込んでかわってくださる方は、**正会員・賛助会員（医療従事者・一般・学生・法人）**として、ぜひ私たちの活動にご参加ください。

会員の特典

- 1 活動地へのボランティア・研修等への参加資格
- 2 年次報告書(年1回)、メールマガジン(月1回)等の配布
- 3 会員限定イベントへのご招待・会員割引
- 4 総会への出席と議決権（正会員のみ）

▶ 法人会員の特典

- 団体ホームページ上の「協賛企業・団体」への掲載
- オリジナルのスタディツアーなど特別プログラムの企画・実施、社員様参加時の割引制度など

年会費

	正会員	賛助会員
医療従事者	20,000円	18,000円
一 般	10,000円	10,000円
学 生	10,000円	6,000円
法 人	100,000円	60,000円

お申込み方法

電話：東京事務局へお問い合わせください。
インターネット：団体ホームページの「参加する」→「会員になる」よりお申込みください。

特定の事業への寄付

▶ Dream Train（ドリームトレイン）サポーター(毎月の寄付)

ミャンマーの養護施設「Dream Train」では、設立から8年が経ち、子どもたちの成長と共に、自立が課題となっています。子どもたちの将来を支えていくためには、大学への進学や職業訓練などを通した継続的な支援が必要のため、毎月のご寄付をお願いしております。サポーター特典として、年に2回、施設の子どもたちからのメッセージと、半年間の活動報告をお届けします。



▶ カンボジアの未来の医療を担う学生を「夢の架け橋プロジェクト」で支援

貧しくとも医療者になることを希望する地方の学生が、大学へ進学し、医師・看護師免許を取得できるよう奨学生支援をしています。農家出身で8人きょうだいのピエンさんは、奨学生の第一号で、ジャパンハートの病院で手術室の看護師として働いています。また、日本語を学び、病院で活動する日本人のサポートもしています。質の高い医療を学ぶ場を提供し、カンボジアの将来に貢献できる医師・看護師を育てるために、ご寄付をお願いいたします。

物で寄付する

身近な物で、寄付ができます。例えば、本1冊で医療施設の子ども1人に文房具を提供、書き損じはがき30枚で5歳の子ども40人に抗生物質の注射をすることができます。

①古本で寄付する：読み終えた本、DVD、CD など

②物品で寄付する：未使用切手や使わなくなったカメラや携帯電話など

③洋服で寄付する：着なくなったブランドものの洋服など

詳細は、団体ホームページ「支援する」ページからご確認ください。

※ご寄付いただく物の送付先は各協力業者になります。詳細はホームページをご覧ください

遺贈での寄付

遺言書に全部または一部の財産の受取人としてジャパンハートをご指定いただくことで、「医療の届かないところに医療を届ける」活動に遺産をお役立ていただけます。

※弁護士などの専門家や、信託銀行など専門機関への相談をお勧めします。 ※必要な手続きを取ることで、税法上の特例措置が受けられます。

企業の皆様へ

ジャパンハートでは企業・団体の皆様とお互いの特長を活かした協働によって、共に「医療の届かないところに医療を届ける」活動をしています。

お互いのことを理解し、目的を共有し、企業・団体さまのご希望と活動地でのニーズをマッチさせて、最適なご支援方法・活動をご提案させていただいております。

・ご支援のかたち（一例）

▶ 御社お取り扱い製品のご寄付

御社でお取り扱いのある製品、また箱つぶれ等の理由で日本国内で出荷が叶わない製品を、ジャパンハートの活動地で使用させていただきます。

▶ 御社独自 CSR システムのご活用

「社員の給与の一部を積み立て寄付とするシステム」や

「自社商品が一つ売れるごとに〇円の寄付」のほか「自社のノウハウを現地の病院に」など、企業様独自の CSR システムを利用し、ご支援をお願いいたします。

▶ お祝いの気持ちをご寄付に替える「こころの花束」

企業様の移転や、周年パーティーなどの際、関係者様やお客様から「お祝いのお花」を受け取る機会があるかと思います。その際、お客様あてに「お祝いのお花を頂くことを辞退するので、そのお気持ちをジャパンハートあてのご寄付としていただく」旨をご提案していただくシステムです。お祝いの気持ちをご寄付に替えるこの新しい寄付のあり方を、ぜひご検討ください。

※いずれも、団体ホームページの問い合わせフォームからお問い合わせください。



株式会社 Apollo & Char Company

弊団体の新ロゴに加え、新たにドリームトレインのロゴデザインや、SmileSmilePROJECT ホームページデザインなど、デザイン関係を一手に請負い、団体のブランディングに大きく貢献してくださっています。



キリングroup労働組合協議会

組合員の方から「愛のカンパ」を募り、ミャンマーの養育施設「Dream Train（ドリームトレイン）」へソーラーパネルとLEDの設置、さらに栄養改善の取り組みへのご寄付をいただき、子どもたちの日々の生活をご支援くださっています。



有限会社志ネットワーク社

ジャパンハートこども医療センターに新たに建設した給食センターでの小児がん患児への食事提供に係る運営資金面で、同社が運営する「青年塾」のメンバーの皆様より多くのご支援を頂き、センターの運営が叶いました。



サラヤ株式会社

医療用の手袋、マスク、ガウン等をご提供いただき、ミャンマーのワッチェ慈善病院をはじめ、医療が行き届いていない地域において、安全で安定した支援活動につながっています。



盛和塾〈佐賀〉

稲盛和夫名誉会長が若手経営者に経営哲学を伝える盛和塾〈佐賀〉様では塾生の皆様からの支援を募り、ジャパンハートが展開する医療活動へのご支援を行っていただきました。



株式会社大和ネクスト銀行

「えらべる預金」の寄付先として SmileSmile PROJECT を選定いただいた他、小児がんをテーマにした写真展を開催し、SmileSmile PROJECT の活動と小児がんに関する認知度を高めるため、様々ご尽力いただきました。



トヨタ自動車株式会社

ジャパンハートこども医療センターを中心に、現地スタッフと一緒にトヨタ生産方式を用いた各種業務の効率改善活動を行い、患者さんの待ち時間を減らすことができました。



株式会社 FiNC Technologies

年賀状に替えて年賀メールとしたことで削減となった切手代分を、ご寄付下さっています。また同社のヘルスケアアプリ「FiNC」にて、登録者の歩数に応じてポイントが貯まり、ポイントの寄付先として弊団体を選定していただきました。



レッドフォックス株式会社

本社移転の際「こころの花束」を利用し、お取引先等からのお祝いのお花を受け取る代わりに、弊団体への寄付にあててくださり、「お祝いの気持ちが子どもたちの命を救う」という新しい寄付文化に貢献くださいました。

▶広報活動

TV 番組への出演

2009年	毎日放送「情熱大陸」1回目
2010年	毎日放送「情熱大陸」2回目
2011年	毎日放送「情熱大陸」3回目
2013年	NHKBS プレミアム「輝く女」
2014年	テレビ東京「未来世紀ジパング」1回目 内閣府テレビCM 出演
2016年	テレビ東京「未来世紀ジパング」2回目 NHK E テレ「先人たちの底力 知恵泉」
2017年	フジテレビ「あいのり：Asian Journey」 テレビ東京「未来世紀ジパング」3回目
2018年10月	テレビ東京系「世界なぜそこに？日本人～知られざる波瀾万丈伝～」、NHK 総合テレビ「実感ドドド！」（九州・沖縄向け）
2019年2月	テレビ東京系列「日経スペシャル 未来世紀ジパング～沸騰現場の経済学」
2019年3月	NHK BS 1「カンボジアに医療の灯を」、NHK 福岡放送局およびFBS 福岡放送のニュース番組（ミャンマー国内初の小児生体肝移植）

▶そのほか

- ・集英社『エクラ 2018年7月号』渡辺真理さん×吉岡秀人対談
- ・日経新聞出版社『日経 MOOK「医学部に行く！」と決めたらまず読む本』巻頭インタビュー
- ・日経 BP 社『日経ビジネスオンライン』ファクトリエ山田敏夫さん×吉岡秀人 対談連載記事
- ・エム・イー振興協会『月刊新医療』河野朋子看護師・鈴木知美看護師
- ・日経 BP 社『日経ビジネス』2019年2月4日号「特集 世界を動かす日本人50人」吉岡秀人選出
- ・ラジオ沖縄「ハイサイ！藤本勇人のヤマト de 沖縄タイム」嘉数真理子 医師出演
- ・『中国新聞』大江将史医師掲載



会計報告

▶2018年度 活動計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位：円)

科目	決算額	前年度決算額
I 経常収益		
1 受取会費	24,356,000	21,794,000
2 受取寄附金・資産受贈益・受取役務寄附金	320,269,708	296,022,898
3 受取助成金等	9,469,602	9,228,432
4 事業収益	59,097,932	63,724,178
5 その他収益	6,746,053	7,748,552
経常収益計	419,939,295	398,518,060
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費	123,625,521	83,711,649
(2) その他経費	206,936,418	138,778,943
旅費交通費	45,434,453	23,274,451
学業・子ども支援費	23,251,645	21,642,078
減価償却費	22,039,446	12,464,895
消耗品費	12,965,402	17,951,408
医療支援・医療器具備品費	40,027,973	11,473,433
地代・家賃	12,011,121	10,798,832
広告宣伝費	1,190,542	10,180,978
その他活動に係る経費	50,015,836	30,992,868
事業費計	330,561,939	222,490,592
2 管理費		
(1) 人件費	13,192,525	12,836,681
(2) その他経費	14,683,593	13,132,053
管理費計	27,876,118	25,968,734
経常費用計	358,438,057	248,459,326
当期経常増減額	61,501,238	150,058,734
III 経常外収益		
固定資産売却益（海外車両）	-	-
経常外収益計	-	-
IV 経常外費用		
固定資産売却損（国内土地）	699,262	7,560,000
控除対象外消費税等	-	-
経常外費用計	699,262	7,560,000
税引前当期正味財産増減額	60,801,976	142,498,734
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
当期正味財産増減額	60,731,976	142,428,734
前期繰越正味財産額	485,893,440	343,464,706
次期繰越正味財産額	546,625,416	485,893,440

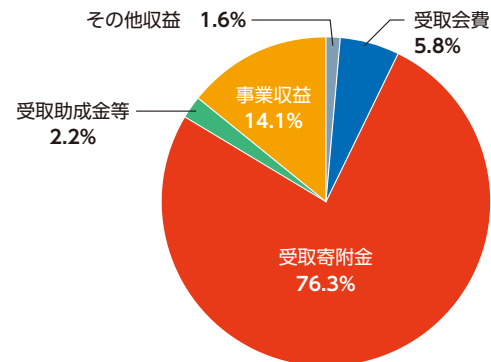
▶2018年度 貸借対照表

2019年3月31日現在

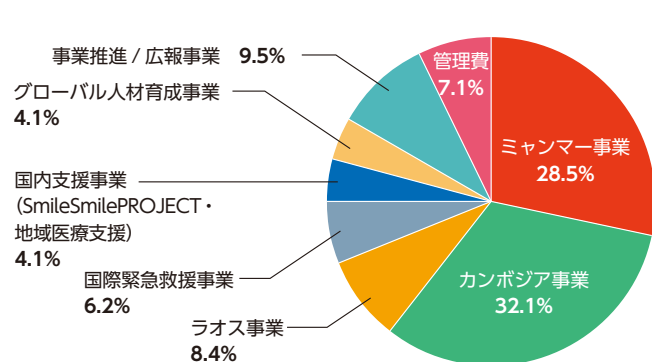
(単位：円)

科目	決算額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	263,926,348
棚卸資産	1,158,000
前払費用	23,833,430
未収金	5,363,035
その他	374,885
流動資産合計	294,655,698
2 固定資産	
土地	49,652,707
建物	156,735,059
建物付属設備	4,197,385
工具器具備品	28,988,483
ミャンマー土地賃借権	18,874,249
敷金	2,197,858
建設仮勘定	9,927,914
その他	11,855,062
固定資産合計	282,428,717
資産合計	577,084,415
II 負債の部	
1 流動負債	
前受金	12,000,000
未払金	17,276,959
預り金	344,840
その他	837,200
流動負債合計	30,458,999
負債合計	30,458,999
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	485,893,440
当期正味財産増減額	60,731,976
正味財産合計	546,625,416
負債及び正味財産合計	577,084,415

▶収入内訳



▶支出内訳（国別、事業別）



私たちジャパンハートは「医療の届かないところに医療を届ける」を活動理念に、
医療にアクセスできない人々に医療を届け始めた。
それが活動の始まりであり、今も続く活動の土台だ。

Japan Heart 1.0：貧しい人々に医療を届ける



次なる挑戦は、
国籍を問わず誰もが健康な人生を送る権利を有するという、当たり前の状態を作ること。
大学専門チームや専門病院合同チームによる小児外科難病の治療、
肝臓移植をはじめとする高度医療の現地医療者への指導などに取り掛かった。

Japan Heart 2.0：貧しい人々にも高度な医療を届ける



私たちは、医療活動が続ける中でかかる負担は患者だけではなく、
その家族にまで及ぶことに改めて気づかされた。
そして同時に、「医療は医療者だけでは完結できない」、そう確信した。
医療に行政や他分野の人々、一般のボランティアの人々を巻き込む。
そして医療を医療者から解放し、他分野の人々と共に、
この時代に合った相互扶助の仕組みを創り出していかねばならない。

Japan Heart 3.0：医療の新しい概念を創り出す



特定非営利活動法人 ジャパンハート

問い合わせ・資料請求

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局 〒110-0016 東京都台東区台東 1-33-6 セントオフィス秋葉原 10 階
TEL. 03-6240-1564 FAX. 03-5818-1610 E-mail : info@japanheart.org URL : <https://www.japanheart.org>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

写真＝Junji Naito（表紙、2-3p、4p、8-9p、12-13p、15p、18p）、土屋和志（10p）